

平成18年1月19日

報道関係各位

筑波大学

学生が保持していた個人情報の流出について

本学医学専門学群の学生が作成し、本人所有のパソコンに保有していた患者様の診療情報を要約した資料が流出しました。

本資料は、臨床実習のレポートを作成するため、パソコン上に保管されていたものであり、ウイルス感染によりそれらの情報が閲覧可能となったものです。

当該学生は、昨年7月、ファイル交換ソフト **Winny** をインストールしましたが、10月頃音楽ファイルのダウンロードに伴いウイルス感染し、以降本年1月18日まで、ネット接続時は当該パソコンに保管されている情報が閲覧可能となっていたものと推測されます。

流出の可能性のある情報等は下記のとおりですが、このような事態が生じたことについて、患者様をはじめとする関係者の皆様に心からお詫び申し上げますとともに、再発防止に向けて万全を期すこととしたいと思います。

記

1 流出した可能性のある患者様の診療情報を要約した資料

(1) 患者様の氏名が含まれる資料 20名分

(2) 患者様のイニシャルが含まれる資料 5名分

なお、匿名の資料が16名分

2 患者様への対応

患者様には、本公表と並行して経緯、流出した可能性のある診療情報の資料内容を説

明するとともに、今回の事態に対する謝罪を行っています。また、今後も引き続き、患者様に対するケアを誠意をもって行っていきます。

3 今回の事態に至った原因

学生の臨床実習に当っては、守秘義務の徹底を指導するとともに、患者様の情報の取り扱いに際しては、匿名とすることを指導してきました。しかしながら、氏名が用いられたこと、患者様の情報が入ったパソコンを安易にネット接続したことなど、指導・監督体制が不十分であったことは否認しません。

4 再発防止策

- (1) 緊急対策として、医学専門学群全学生に対し、患者様に関する情報の保管状況、パソコンのセキュリティ対策等を中心に点検しています。
- (2) 恒久的な対策として、患者様の情報の取扱いに関するルールの再点検、情報の暗号化等セキュリティ対策の強化、学生に対する教育の徹底など、総合的な再発防止策を実施します。

(問合せ先)

筑波大学総務・企画部広報課

電話 029-853-2061